

「GX 経済移行債フレームワーク改訂版等に関する説明会」 質疑応答

開催日時：2026 年 3 月 23 日（月）14：00～15：10

質問（質問者の属性）	回答（回答者）
<p>足元の GX 経済移行債の発行において、多少のグリーンアムの発現が見られるとの説明があったが、これは ICMA からクライメート・トランジション・ボンド・ガイドラインが公表され、同ガイドラインへの適合に係る注目が集まった結果だと推察している。このように仮定すると、海外投資家からの GX 経済移行債の買いも入っていると予測するが、この点で何か感触はあるか。</p> <p>また、現在も取り組んでいる、国内外の投資家への GX 経済移行債に関する説明・情報発信について、より一層投資家の理解を得るため、今後はどのように進めていく予定か。（評価機関）</p>	<p>インパクトレポートや資金充当レポートの策定・公表等の取組みが国内外の投資家の理解につながり、投資を促しているのであれば非常に歓迎すべきことである。</p> <p>そのうえで、統計上、海外投資家における GX 経済移行債の売買状況を的確に把握することは難しい。他方で、アネクドータルな情報と日証協の公社債店頭売買高や日本銀行の資金循環統計を確認しながら一定の状況把握には務めている。</p> <p>海外投資家への説明について、2 月 27 日に「令和 5 年度発行分 資金充当・インパクトレポート／令和 6 年度発行分資金充当レポート（英語版）」を公表し、3 月に IR で欧州を訪問した際にその内容を説明したところ、資金充当先を細かく質問される等、関心が非常に高かった。国内投資家向けには、GX の取組みの具体化が進んで GX 経済移行債にも一層関心が高まっているところ、こうした機会を捉え、本日のように関係者と説明会を実施する等、ご関心のある方に向けてコミュニケーションをとる場を積極的に作っていきたいと考えている。（財務省）</p>
<p>資料 P11 において、GX 経済移行債に特化した海外向け IR では、個別面会した ESG、サステナビリティ関連の担当者から「外貨建てでの発行可能性」に関するコメントがあったとのことだが、どのような背景でこの話題となったのか。また、コメントに対してどのように回答したのか。（証券会社）</p>	<p>そもそも海外では、シンジケーション方式を導入している国も多いところ、なぜ JGB は公募入札方式で発行しているのかという質問があった。海外の担当者との個別面会する際には環境の専門家等、JGB に詳しい者ではないケースもあり、世界的にはドル建てで国債を発行している国も見られる中、素朴な疑問として外貨建てでの発行可能性を聞いているのだろう。当方からは、1966 年に国債を発行した時はシ団引受方式で発行していたものの、次第に公募入札方式に移行してきた経緯や、戦後においては全て円建てで国債発行していることを回答した。（財務省）</p>

以 上